

## 2017-18 年度カリキュラム報告

—アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターの中上級日本語集中教育—

大 竹 弘 子

### 1 はじめに

横浜にあるアメリカ・カナダ大学連合日本研究センターは、日本研究の専門家や日本関係の実務家などを目指す人々に、中上級レベルの日本語を集中的に指導する教育機関である。本センターでは、40 週間におよぶレギュラーコースと、7 週間の夏期コース、3 週間の漢文夏期集中コース、専門家・大学院生に対して個別指導を行うプロフェッショナルコースの、4 種類の日本語プログラムを実施している。2017-18 年度のレギュラーコース修了生は 63 名、それに続く 2018 年 6 月から 8 月の夏期コース修了生は 42 名、2017 年 6 月から 7 月の漢文コース修了生は 7 名、プロフェッショナルコースは 14 名が受講した。（夏期コース報告 [https://iucjapan.org/pdf/nenpou2018\\_Akizawa\\_2.pdf](https://iucjapan.org/pdf/nenpou2018_Akizawa_2.pdf) ・漢文夏期集中コース報告 [https://iucjapan.org/pdf/nenpou2018\\_Otake\\_2.pdf](https://iucjapan.org/pdf/nenpou2018_Otake_2.pdf) 参照）。以下に 2017-18 年度の、40 週間のレギュラーコース実施内容を報告する。

### 2 レギュラーコースの概観

2017 年 9 月 4 日から翌 2018 年 6 月 8 日までの 40 週間にわたってレギュラーコースを実施した。本コースは 4 つの学期からなり、9 月開始から 10 月末の秋休みまでを第 1 学期、11 月から 12 月の冬休みまでを第 2 学期、翌新年 1 月から 3 月の春休みまでを第 3 学期、そして春休み明け以降コース終了までを第 4 学期とし、1~2 学期をまとめて前期と呼び、3~4 学期を後期と呼んでいる（表参照）。

2017-2018 年度 40 週間のレギュラーコース日程

週	10:00-11:50 午前クラス授業	13:20-15:00 午後クラス授業 水曜は午後のクラスなし			
1	オリエンテーション・試験・面談	オリエンテーション・面談など	↑		
2	文法	総合運用 I			
3					
4			1学期		
5			9/4-10/27		
6			8週間		
7	待遇表現				
8			↓		
9	秋休み 1 週間 10 月 28 日(土)~11 月 5 日(日)				
10	接続表現	総合運用 II	↑		
11	統合日本語 I				
12			2学期		
13			11/6-12/22		
14			7週間		
15					
16			↓		
17-19	冬休み 3 週間 12 月 23 日(土)~1 月 14 日(日)				
20	統合 日本語 II	選択 A 選択 B	↑		
21			総合運用 III		
22				3学期	
23				1/15-3/9	
24				8週間	
25					
26					
27		個人面談		↓	
28-29	春休み 2 週間 3 月 10 日(土)~3 月 25 日(日)				
30	統合 日本語 III	選択 A 選択 B	↑		
31			プロジェクトワーク/ クラス授業/グループ学習		
32				4学期	
33					3/26-6/8
34					
35					
36	GW 休み 1 週間 4 月 28 日(土)~5 月 6 日(日)		11 週間		
37	統合 日本語 III	選択 A 選択 B	プロジェクトワークなど	授業は実質	
38				8週間	
39	試験5/28月、発表準備		試験5/28月、発表準備		
40	発表6/4-6月火水、面談6/8金		発表6/4-6月火水、面談6/8金	↓	

午前と午後の授業には、午前は日本語の構造や知識に関する言語形式面を重視し、午後は聴読解や発話など言語運用の技能を伸ばす、という力点の置き方に差異がある。午前には「文法」「待遇表現」「接続表現」「統合日本語ⅠⅡⅢ」を必修科目とし、後期には選択必修科目「選択A」「選択B」を「統合日本語Ⅱ」「統合日本語Ⅲ」と並行して実施した。午後は「総合運用」が1学期から3学期まで続き、4学期の午後は「プロジェクトワーク/グループ学習/日本語 N1・N2 クラス（うち1つを選択）」を行った。各学期の教育内容を以下に記す。

### 3 第1学期の教育内容

1学期から3学期を通し、午前の授業は月曜から金曜までの5日間50分授業を2コマ（途中10分間休憩）行い、昼食をはさみ午後は水曜を除く4日間100分間授業を1コマ行った。

#### 3-1 文法

入学直後の1学期午前では、まず中級学習者にとって理解が難しく誤りやすい文法事項を取り上げ、知識を整理し正確さを高めながら運用力を向上させた。市販教材『レベルアップ日本語文法』（くろしお出版）、『*Japanese Grammar*』（本センター作成）のどちらか一方を、各クラスの日本語習熟度に応じて使用した。また、敬語とその随伴行動の学習準備として「プレ待遇表現（動画スキット全4回）」（本センター作成）を導入した。聴解・会話強化の補助教材として『*An Introduction to Advanced Spoken Japanese*』（本センター作成）を使用した。午前22日間44コマをこの指導にあてた。

#### 3-2 待遇表現

文法復習に続く午前の授業では、円滑な人間関係を構築できるよう、敬語とその随伴行動、社会慣習、礼儀、挨拶などを含めた言語行動を取り上げた。主教材として『待遇表現』（本センター作成）を用いた。この待遇表現の指導に午前9日間18コマをあてた。

#### 3-3 総合運用Ⅰ

午後の授業「総合運用」は主として、読解、聴解、発話などの技能面に焦点をあて、文字通り総合的な日本語運用力の向上を目指した。第1学期は身近で日常的な話題を扱った「経験談」という単元から開始し、自然な話し方に慣れるとともに、既習の文法事項などを総合的に活用する機会を提供した。続いて新聞やニュースを教材とする社会性をおびた単元に進み、日本事情や時事的話題に関する語彙・表現の習得と運用力向上を促した。午後18日間×100分をあてた。

## 4 第2学期の教育内容

### 4-1 接続表現

接続詞に特に注目し、文と文の接続、段落や文章の組み立て方（複段落の作成）について指導した。教材として『接続表現』（本センター作成）を用いた。午前10日間20コマをこの指導にあてた。

### 4-2 統合日本語 I

一般的な中級段階の日本語から、より高度で専門的な日本語への橋渡しをするために、『統合日本語 *Integrated Japanese Advanced Course*』（本センター作成）を用いた。各課は同一の話題をめぐる「文章編」と「会話編」からなり、「文章編」では読解練習とそこで扱われる文型・語彙・表現を学び、「会話編」では自然な話し言葉を状況に応じて使い分けられるよう指導した。2分冊の上巻第1～3課を2学期に、下巻第4～5課を3学期に扱った（5-1節「統合日本語 II」参照）。月曜から金曜の午前23日間46コマを統合日本語 I の指導にあてた。このうち12/20の午前2時間をミニ発表会にあて「統合日本語 I」で学んだ知識や技能を整理する機会とした。

### 4-3 総合運用 II

一般的な社会問題をめぐる生教材、つまり読み物と関連ビデオ（例えば報道番組）などを読解・聴解し、話し合いを重ねることによって、類似した一般的な話題についても日本人と話し合える能力獲得を目指した。この総合運用 II では、話題シラバスのモジュール型教材群「文化の発信」「ものづくり」「外国人と国籍」「地球環境」「働く女性」「教育制度」「差別と人権」「現代の若者たち」の中から学生の興味や関心あるいは必要性に応じて教材を選び、各クラスの理解度に合わせて授業進度を調整した。午後21日間×100分を総合運用 II の学習指導にあてた。

## 5 第3学期の教育内容

冬休みが明けた1月から第3学期が始まり、この学期から、各学生の専門・興味・関心・必要性に応じた選択授業が増える。必ず履修すべき授業時間数はコース前半と同じく、午前50分授業2コマ5日間、午後は水曜以外100分授業4日間で変わらない。午前、月曜に選択 B、火曜と金曜に選択 A、水曜と木曜に統合日本語 II を配し、午後4日間（水曜以外）は総合運用 III を実施した。また水曜午後と木曜放課後に随意科目の選択 C を設けた。

## 5-1 統合日本語Ⅱ

3 学期に全学生が共通の教材で学ぶ授業はこの「統合日本語Ⅱ」だけである。週 2 日、『統合日本語 *Integrated Japanese Advanced Course*』（本センター作成）下巻を教材に、水曜と木曜の午前 2 コマずつ計 4 コマ「統合日本語Ⅱ」を実施した。3 学期最終週の授業 2 日間（3/7 と 3/8）をミニ発表会にあて「統合日本語Ⅱ」で学んだ知識や技能を整理する機会とした。3 学期の水曜と木曜の午前 16 日間 32 コマをあてた。

## 5-2 選択 A

3～4 学期の午前週 2 回（火曜と金曜）、各学生は自己の専門領域に関連するコースを 1 つ選び、将来の学術研究や専門実務に資する言語面の能力育成に取り組んだ。学生には 3～4 学期を通じて同じコースを継続履修するよう奨励した。例年、コース選択に迷う学生がいるので、「選択 A コースお試しクラス」と称して 2 学期の午後 1 日（11/28）を利用して体験受講の機会を設けた。本年度の開設コースは昨年度の「文化人類学」「政治経済」「美術史」「文学」「歴史」「法律」に加え、「日本学概論」を新設し、7 コースとした。火曜と金曜の午前に 3 学期 16 日間 32 コマ、4 学期に 16 日間 32 コマをあてた。

### 5-2-1 文化人類学

3 学期は「言語とフィールドワーク」「ジェンダー」「グローバル化」「伝統文化と民族誌」をテーマに設定し、具体的な事象から抽象的課題に至る専門性の高い読み物を教材とした。4 学期は各学生が自己のテーマにそった素材を提供し話し合いを進め、校外学習も行った。

### 5-2-2 政治経済

3 学期は日本の「政治・経済」に関する記事や文献が理解できるよう、政治学や経済学の一般向け入門書を教材とし、基本的な知識と語彙を充実させた。4 学期は各学生が興味を持っているテーマに関する読み物を選び授業を進めた。取り上げられたテーマは「領土問題」「行動経済学」「国際援助」「投資信託」「ASEAN」など幅広く、学生はお互いに知識を深め合うことができた。また、3 学期には国会・領土主権展示館見学を実施し、4 学期には学外講師を招き、「日本における起業」というテーマで講演を行った。

### 5-2-3 美術史

明治時代に形成された「日本美術史」という概念をまずおさえた上で、美術史特有の専門用語や概念、作品分析、イメージの読み解きなどを行った。また、各学生の研究テーマに関する論文を学生自身が選び、議論した。「日本美術誕生」「視線のポリティクス」「明治の美術行政」「美術とジェンダー」「身辺図像学」「国際的同時代」「60 年代の映画論」「デザインと

環境」「アヴァンギャルド芸術」「像内納入品」「印仏」などのテーマを扱い、開始時と終了時には各自の研究を紹介し、具体的な描写と抽象度の高い概念を織り交ぜ表現することに焦点を当てた。

#### 5-2-4 文学

明治から現代までの短編小説および関連する評論を取り上げ、様々な観点から作品を分析し、話し合いを行った。おおむね 2～3 回で 1 作品を読んだ。4 学期は明治期の作品を中心とするクラス、現代作品を中心とするクラスを設けた。

#### 5-2-5 歴史

日本語で歴史研究を進めていくための基礎訓練を積み重ね、語彙・表現の拡充を図った。3 学期は学生の興味・関心・必要性に応じて、専門書および一次史料を素材とする読解練習を行った。4 学期は各学生の個別テーマに関する論文の読解と話し合いなどを実施した。また、横浜中央図書館、国会図書館、国立公文書館及び外務省外交資料館で、見学、資料検索の体験も行った。

#### 5-2-6 法律

憲法、民法を中心に、刑法、国際法、知財法等、学生の興味に合わせて、その基本的内容を判例も用いながら指導し、条文・判例を自力で読解できる技能を育成した。また、日本大学法学部大学院のゼミ聴講、裁判所・検察庁見学等の活動を授業と結び付ける形で行った。

#### 5-2-7 日本学概論

「日本学概論」は専門が定まっていない学生、幅広い分野の日本語力を追及したい学生など対象に今年度新たに設けた選択科目である。選択 A の分野を中心に日本研究や日本についての多種多様な教材を用い、知識を蓄え、理解を深めたのち、互いに話し合うことで日本語力の充実を図った。

#### 5-3 選択 B

選択 B では必要とされる、あるいは弱点と思われる日本語力の増強のために「精読」「精聴」「即聴」「ライティング」「ビジネス日本語 I」の 5 コースを開講した。昨年度と異なり、3 学期・4 学期を通じて同じ内容のコースを提供し、4 学期と合わせ 2 コースの選択を可能とした。3 学期は月曜の午前 7 日間 14 コマをあてた。

### 5-3-1 精読

300～400 字程度の短めの文章（毎回 4 つ程度）を素材として、そこに書いてある内容を正確に読み取る練習を積み重ねた。授業では、文章全体の概要把握に続き、一文一文の細かな読みへと進んだ。音読の活動も取り入れ、意味が伝わる読み方も重視した。

### 5-3-2 精聴

2 分程度のニュースや情報番組、そして一部映画等の精聴練習を積み重ねた。正確に再生できるまで繰り返し聞き直し、クラス全体でスクリプトを作成した。

### 5-3-3 即聴

準備なしで視聴したものについて、質問、確認、再生、まとめ、意見表明などその場で即応することを目標とした。毎回、10 分の独話による解説を 1 つ、討論、インタビュー、会話などの共話から 1 つを題材とした。

### 5-3-4 ライティング

随筆から小論文まで、目的に合った幅広い文章表現力の習得を目的とした。毎週、宿題として各種の文章を書き、授業ではそれを全員で検討・批判しあい、日本語らしい文章の書き方と推敲の技術について考察した。

### 5-3-5 ビジネス日本語

就職活動を経て新社会人として働く場で遭遇する状況を設定し、役割練習を積み重ね、ビジネスメールの課題提出を通して、事例に即した解説を加えながら実践指導をした。また、選択 C の「ビジネス」と連携し、模擬就職面接を行った。（5-5-3 節「ビジネス」参照）

## 5-4 総合運用Ⅲ

3 学期の午後は「現代史」「大衆文化」「ビジネス・社会」のうち 1 コースを選択する。どれも、読み物を理解したりビデオを視聴したり、さらにその話題について討論をするなどの諸活動が盛り込まれている。午後 22 日間×100 分を総合Ⅲの学習指導にあてた。

### 5-4-1 現代史

ムービーフィルムが残されている 1900 年前後からの日本の歴史を、「戦前の日本 1900-45」「敗戦と復興 1945-55」「高度成長 1955-70」「現代の日本 1970-95」の 4 期に分け、ビデオと読み物で概観した。また、1995 年以降の現代日本について、各学生が興味を持ったテーマで発表を行った。

#### 5-4-2 大衆文化

広い意味での日本の“大衆文化”に関して日本人と話せるようになることを目標とした。「CM」「マンガと教育」「映画とオタク」「言葉と音楽」というテーマで資料を読み、話し合った。また、コース最後には、「これって文化」というテーマで学生各自が発表した。

#### 5-4-3 ビジネス・社会

バブル経済の前後における企業や政府、さらに社会や人々の暮らしの変化を、戦後史にも触れながら追っていった。「バブル前後」「創業者」「通産省と大蔵省」「平成不況」「雇用制度」「系列」「マネーゲーム」「大震災後」などの話題を取り上げた。

#### 5-5 選択 C

3・4 学期の随意選択科目として「文語文法」「漢文」「ビジネス」の 3 コースを開設した。このうち「ビジネス」は外部から招いた専門家が指導に当たった。

##### 5-5-1 文語文法

文語文法の用語や歴史的仮名遣いから導入し、動詞・形容詞・助動詞の指導に進み、文語作品の部分的読解も並行して行った。木曜 15 時 10 分～16 時 50 分に開講した。(3 学期のみ)

##### 5-5-2 漢文

日本人が書いた漢文や漢文体の素材を取り上げ、読み下しと解釈の練習を行った。まず漢文の基礎構文をおさえ、それを応用して短い文章を読んだ。水曜 13 時 20 分～15 時 00 分に開講した。

##### 5-5-3 ビジネス

「日本の産業と金融」を主題に、新聞や雑誌の記事を素材として、ビジネス界の実情にも触れながら、日本経済の現在に至る経緯を紹介し、今後の展望と課題について講義した。選択 B「ビジネス日本語」と連携する形で、模擬就職面接を実施した。(5-3-5 節参照) 毎週木曜の 15 時 15 分～16 時 15 分に、神奈川経済同友会の湧井敏雄氏が指導に当たった。

#### 6 第 4 学期の教育内容

プログラム最後の 4 学期の午前は、月曜の「選択 B」、火曜と金曜の「選択 A」、水曜と木曜の「統合日本語Ⅲ」が 3 学期から継続する。「選択 B」は新たに選択し、「選択 A」は同じ分野を 3 学期から継続履修する。

また、4 学期の午後は「プロジェクトワーク」「グループ学習」「日本語能力試験 N1・N2 クラス」のうち1つの学習形態を選択し学習を進めた。

### 6-1 統合日本語Ⅲ

4 学期の水曜と木曜の2日間は、日本語のおもに形式面の補強・拡充・総仕上げを目指した。各クラスで、学生の到達度、興味、要望に応じて各種の教材を選択・補足し、内容に関連した発話活動などを通じて、既習事項を総ざらいし日本語の知識をより確実なものにするとともに、上級日本語話者が知っておくべき事項の欠落箇所を補うなどした。16 日間 32 コマをあてた。

### 6-2 選択 A

3 学期と同じ分野を継続履修する。16 日間 32 コマをあてた。(5-2 節参照)

### 6-3 選択 B

4 学期の月曜日は3 学期と同内容の「精読」「精聴」「即聴」「ライティング」に加え、「日本文化論」「現代小説」の6 コースを開設した。3 学期同様日本語力の増強を図ることも可能であるし、また、まとまった内容のものを読むということで「日本文化論」「現代小説」を選択することもできる。8 日間 16 コマをあてた。(3 学期と同内容のコースについては 5-3 節参照)

#### 6-3-1 日本文化論

青木保著『日本文化論の変容』を素材とし、各学生が担当箇所を分担した。担当者は事前にレジメを作成し、発表と話し合いを行った。本文で著者が引用した文献を追加資料として配付し、内容理解の不十分な点を確認した。

#### 6-3-2 現代小説

現代作家による短編小説を毎週1 作品ずつ取り上げた。授業では予習を踏まえて学生間の議論を促し、作品の「読み」を相互に深めあった。教材として、村上春樹、向田邦子、宮部みゆき、川上弘美、綿谷りさ、大江健三郎、筒井康隆、江戸川乱歩の短編を扱った。

### 6-4 4 学期午後

4 学期の午後は「プロジェクトワーク」「グループ学習」「日本語能力試験 N1・N2 クラス」のうち1つの学習形態を選択して学習を進めた。

#### 6-4-1 プロジェクトワーク

プロジェクトワークでは、各学生が自己の専門や興味ある分野の主題を選び、その内容に比較的詳しい教員から毎週 50 分間個別の助言を受けながら、実地の調査研究や文献の読解などを行った。

以下に今年度のプロジェクトワークテーマ一覧を挙げる。

- ・ 日本とインドネシアの木材貿易
- ・ 朝鮮通信使
- ・ ロシア出身モデルのイメージ
- ・ 無政府主義と明治末期の文学・政治
- ・ 東照大権現の画像文化
- ・ 武道における「気」
- ・ 日本兵遺品の返還運動
- ・ 俊成卿女の和歌
- ・ ニート政策
- ・ 空間と物語の関係性
- ・ 日英、日中の通訳における戦略
- ・ 満州映画
- ・ 北方領土
- ・ 在日米軍基地
- ・ 応用数学と AI
- ・ 道成寺説話
- ・ 日本国内戦時下の資源不足と環境に関する政策
- ・ 日本のプレハブ住宅
- ・ 像内納入品
- ・ 戦後看護教育制度
- ・ 日本の外国人労働者
- ・ 日本の映画理論
- ・ 厨子の歴史と物質性
- ・ 沖縄の詩人 山之口獏
- ・ 笙野頼子『金比羅』
- ・ 歴史教科書問題
- ・ 日本のポップパワー
- ・ 能・狂言における型の研究
- ・ 和歌の修辞技法・和歌の社会的役割
- ・ 山川菊栄
- ・ 中日米の大学教育制度・社会の人材育成
- ・ 『折々草』

#### 6-4-2 グループ学習

同じ興味を持つ学生が集まってグループを作り、自分たちで決めたテーマに従って文献を選び、読解及び話し合いを行った。今年度のグループは一つで、「人の移動」という大きなテーマの下、「外国人労働者」「移民」「難民」「植民地」などを扱った。

#### 6-4-3 日本語能力試験 N1・N2 クラス

日本語能力試験 N1・N2 レベルの文型の習得を目指して、100 分のクラス授業を週 2 回、計 16 回行った。市販の問題集を使用して文型の知識増強を図り、語彙クイズ、復習クイズ、模擬試験を行った。

### 7 通年で実施した学習指導と行事など

40 週間にわたるプログラム期間中、教室における通常の授業に加えて、日本語の習得を促す数多くの機会を織り込んだ。以下にその代表的な活動を紹介する。

#### 7-1 評価と個人面談

本プログラムでの学習成果を測定するため、入学直後と卒業時に実力試験を実施した。読解と漢字の筆記試験、聴き取り試験、面接形式での発話テストを、入学・卒業時に共通して実施し、入学時にのみ文法と作文のテストを加えた。

試験結果をもとに1学期のクラス（午前・午後各9組）を編成するとともに、午前のクラス担任教師は、コース開始に先立ち、午前クラスで受け持つ各学生と個別に面談し、試験の結果を踏まえ40週にわたる学習の指針などを助言した。1学期末にも午前のクラス担任と各学生とが個別に面談し、その間の学習ぶりを振り返り、新たな課題を設定するなどした。

このような教師と学生の個人面談の機会はその後も各学期末に設けている。2学期末と3学期末の面談はそれぞれ午前のクラス担任が行い、4学期末の卒業時は1学期と同じ教師が同じ学生と面談し年間を総括した。

クラスは学期ごとに午前・午後とも必要性を考慮した上で可能な限り編成替えをし、新鮮な気持ちで学習に臨める雰囲気の維持を図った。

#### 7-2 漢字プログラム

プログラム期間を通じて、常用漢字習得のための自律学習プログラムを実施している。教材として本センター編集発行の市販教材『*Kanji in Context*』『*Kanji in Context Work Book vol. 1・2*』（ジャパントイズ社）を用いる。これは漢字を単独ではなく、熟語や例文と共に学習できる内容構成となっており、学生は常用漢字すべてを卒業までに習得でき

るよう、毎日教材を独習し、授業以外の時間にクイズ 156 回を受けることとなっている。さらに漢字学習を促すため、Web アプリケーション「WebKIC」が作成されており、学生は自分の進度に合わせて、漢字習熟度を確認することができる。また、これを利用して「KIC 統一試験」を作成し、実施している。

統一試験は、漢字・漢語を書く、読み方や意味を答えるという問題 50 問を全学生が受け、点数が 6 割未満の場合は再試験を受けなければならない。今年度は、毎学期 1～2 回、計 7 回実施した。この統一試験により、漢字学習が習慣化し、クイズの修了率が以前に比べて向上した。

今年度初めての試みとして、統一試験前に漢字の書字指導を 4 回行った。漢字クイズ採点者が試験範囲の漢字を中心に、よく学生が書き間違えるポイントを示しながら指導した。字形への認識が高まったなど好評であった。

### 7-3 講演会、校外学習、各種の企画や催し

全学生を対象とする講演会を 3 回 (12/1,12/7, 5/10)、全学生が参加する校外学習を 1 回 (10/2) 開催した。また、選択必修コース授業の一環としてコースで独自に実地見学におもむくなど様々な学習機会を設けた。各種の催しは実施順に本稿末の資料に一覧としてまとめた。この表には、本センターが主催した行事をはじめ、相手方の団体から招待を受けて本センターが学生に参加を呼びかけた催事を記載した。

以上の催し以外に、希望学生を対象とした課外活動「書道」「古筆」「茶道クラブ」を設けた。「書道」「古筆」のコースは書家の小林紘子氏が担当した。「書道」は年間を通じて月曜 15 時 15 分～16 時 45 分に実施し、「古筆」は後期のみ書道終了後に実施した。「書道」のコースは、書の心得や筆の運び方などの基本から伝授し、最終的には自作の落款付き作品を仕上げ掛軸に表装したものを卒業発表会場に展示した。「古筆」は手書きの古典文献を理解するのに欠かせない「くずし字」の読解練習を段階的に進めた。

「茶道クラブ」は初心者向けの裏千家学校茶道で、3・4 学期に設けた。専任講師資格を有する本センター講師が担当した。真・行・草の礼に始まり、畳の歩き方、床の拝見の仕方、割り稽古と進み、点前の習得を目指した。また、茶席では、茶道に関連した軸、花、茶碗、歴史などについて説明した。

## 8 卒業発表

卒業発表会は 10 か月間にわたる学習を締めくくる催しである。全学生は、来賓と全教職員学生の前で、質疑応答を含め 1 人 15 分の持ち時間内で、やや改まった形式の発表をした。今年度は全員個人発表であった。

4 学期の午後の授業がプロジェクトワークあるいはグループ学習の学生は、その時間内

に卒業発表の準備を進めた。日本語能力試験 N1・N2 クラスの学生はミニ発表会（2・3 学期の「統合日本語」）などで話した内容を洗練させるなどして卒業発表に仕上げた。N1・N2 クラスの各学生には 1 人 2 時間分、原稿のチェックと発表の予行演習を個別指導する教員を割り当てた。

本センターのウェブサイト「卒業発表会内容紹介」ページでは過去の年度も含め、題目と要旨を公開しているので参照されたい。[http://www.iucjapan.org/html/presentations\\_j.html](http://www.iucjapan.org/html/presentations_j.html)

## 9 おわりに

本年度は学生数が 63 名と多く、また学生のニーズ・目標などの多様化が見られた。そのため、昨年度の反省も踏まえた上で、カリキュラム見直しの端緒として、選択 A を 1 コース増設し、選択 B ではコースの種類・内容を変更するとともに、選択の形も変更することとした。カリキュラムの見直しに関しては次年度以降も継続が予定されている。

(おおたけ ひろこ／本センター言語課程主任)

【資料】2017-18年度 通常授業以外の各種イベント情報

2017年

- 9月10日(日) 国立能楽堂 能・狂言  
9月11日(月) 防災説明会 避難訓練  
9月15日(金) 入学歓迎親睦会  
9月16日(土) 矢来能楽堂 能・狂言  
9月30日(土) 神奈川まちづかい塾主催 古民家見学
- 10月1日(日) 国立能楽堂 能・狂言  
10月1日(日) 鶴岡八幡宮 流鏑馬  
10月2日(月) 校外学習 日米協会アメリカ研究者の集い、三溪園  
10月14日(土) 神奈川まちづかい塾主催 求道会館見学  
10月15日(日) 横浜かもんやま能
- 11月5日(日) 横浜市立大学「浜大祭」学内ツアー  
11月19日(日) 鶴岡八幡宮 書道ワークショップ  
11月12日(日) 国立能楽堂 能・狂言
- 12月1日(金) 日本財団講演会 大阪大学教授ジェリー・ヨコタ氏(IUC1979年卒)  
「『伝統』の息吹 — 能からアニメまで」  
12月7日(木) 講演会 日米協会理事 久野明子氏  
「最初の日本人女性留学生 大山捨松」  
12月8日(金) YOKE 地球市民講座 IUC 紹介&交流会  
12月12日(火) 就職相談会 カール・パイザー氏(IUC 1997年卒)  
12月15日(金) 文楽鑑賞教室 国立劇場  
12月16日(土) 鶴岡八幡宮 御神楽  
12月18日(月) 学生との座談会 内閣府「クールジャパン」担当者

2018年

- 1月16日(火) 交流会 米国国務研修所 FSI  
Gary G. Oba 氏 (Director) 、 Michael Turner 氏, Darin Phaovisaid 氏  
1月21日(日) 国立能楽堂 能・狂言  
1月26日(金) 映画『「おくじらさま」ふたつの正義の物語』  
上映会ならびにトークショー

監督 佐々木芽生氏、ジェイ・アラバスター氏 (IUC2005 年卒)

- 2月 3日 (土) 巖島神社 (関内) 「節分祭」
- 2月 6日 (火) 説明会 NPO セカンドハーベストバンク CEO Charles McJilton 氏
- 2月 12日 (月) 民謡ディナーショー
- 2月 16日 (金) 就職活動説明会 株式会社 Unibird 代表取締役 エンピ・カンデル氏
- 2月 19日 (月) 講演会 Ambassador Robert M. Orr 氏 “Obama Trump and East Asia”  
Member of the Board of Directors, Council of American Ambassadors
- 2月 20日 (火) 企業説明会 アーバンコネクションズ 松崎理香氏
- 2月 20日 (火) 校外学習 歴史・美術史クラス 横浜市立中央図書館
- 2月 23日 (金) 就職説明会 トップキャリア Simon Robinson 氏  
会社説明会 フォースバレーコンシェルジュ
- 2月 23日 (金) 校外学習 法律クラス 横浜地方裁判所見学
- 2月 28日 (水) 企業説明会 En World Japan Co.,Ltd. Kevin Naylor 氏  
ボビー・ヒューメドーラ氏 (IUC2017 年卒)
- 3月 2日 (金) 会社説明会 RakSul
- 3月 6日 (火) 校外学習 政治経済クラス 領土・主権展示館
- 3月 11日 (土) 国立能楽堂 能・狂言
- 3月 12日 (月) 能ワークショップ 横浜能楽堂
- 3月 13日 (火) 講演会 青梅市立美術館学芸員 田島奈都子氏  
「プロパガンダポスターに見る日本の戦争」
- 3月 30日 (金) 校外学習 人類学クラス キリン工場見学  
美術史クラス 国会図書館・写真美術館見学
- 4月 1日 (日) 国立能楽堂 能・狂言
- 4月 12日 (木) 若手研究者ネットワーク談話会 明治大学助教 伊勢弘志氏
- 4月 26日 (木) 尺八・フルート・ピッコロ演奏会
- 4月 27日 (金) 校外学習 歴史クラス (国会図書館・外交資料館・公文書館)
- 5月 7日 (月) ～18日 (金) 授業聴講 日本大学大学院社会科学系 (法律・政治・新聞)
- 5月 10日 (木) 日本財団講演会  
元駐日米国臨時代理大使 ジェイソン P. ハイランド氏 (IUC1979 年卒)  
「私の歩み 日本を見つめ続けて」
- 5月 12日 (土) ～13日 (日) 長野県中野市 国際交流学生招待
- 5月 15日 (火) 政治経済クラス校外学習 国会議事堂

5月 18日 (金) ～20日 (日) 下田市主催「黒船祭り」

5月 25日 (金) 懇談会 米国国務省言語サービス局 レフテリ・カファト氏  
(IUC2002年卒)

5月 29日 (火) 校外学習 法律クラス 横浜地裁・地検

6月 3日 (日) 国立能楽堂 能・狂言

6月 4日 (月) ～6日 (水) 卒業発表会

6月 8日 (金) 卒業式 卒業祝賀会

6月 9日 (土) 鶴岡八幡宮「螢放生祭」招待